

# 平成30年度全国学力・学習状況調査 結果概要と改善策

「全国学力・学習状況調査」を4月17日（火）に実施（中3対象）しました。その結果をもとに、本校生徒の学力・学習状況の成果と課題について分析しましたのでお知らせします。今後も、学校全体でさらなる学力向上に向けた取組を推進していきたいと考えていますので、ご理解・ご協力の程、よろしく申し上げます。なお、生徒質問紙の分析につきましては、11月の学校便りで紹介させていただきます。

国語	○成果が見られる（平均正答率80%以上）・概ね達成している主な設問（平均正答率60%以上）	
	<b>出題の趣旨</b>	
	A	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する
		場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する
	B	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる
	●課題が見られる主な設問（平均正答率60%以下）	
	<b>出題の趣旨</b>	
	A	話し合いの話題や方向を捉えて、的確に話す
	B	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く
	国語A・B 国語Aでは、32問中16問で正答率80%を、10問で60%を超えていた。しかし、漢字の読み書きを除いた記述式・短答式の問題では、国語A・B合わせると8問あり、そのうち半数の4問で課題が見られた。特に、目的に応じて文の成分の順序や構成を考えて適切な文章を書く問題と相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題では、正答率が30%台以下となっていた。このことから、論理的に順序立てて文章を書くことに課題がある。 解決策は、主語・述語の対応と助詞の使い方などの文法を理解し、新聞の社説等長文の要約や4コマ漫画を文章だけで伝えるなどのトレーニングで力がつくと考えます。 また、「聞く・話す」能力を問う問題に関しては、正答率は平均すると70%と低くはないが、傾向として、質問の意図は捉えているが、相手の反応をふまえて話すことを苦手としていると考える。そのため、単語で話したりせずに、聞き手を意識して話す機会を多く設けることが有効であると考えられる。	

数学	○成果が見られる（平均正答率80%以上）・概ね達成している主な設問（平均正答率60%以上）	
	<b>出題の趣旨</b>	
	A	簡単な比例を解くことができる
		半円を、直径を軸に回転させると球になることを理解している
	B	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
	●課題が見られる主な設問（平均正答率60%以下）	
	<b>出題の趣旨</b>	
	B	与えられた情報を整理分析し不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる
	B	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし説明することができる。
	数学A・B 数学Aでは、36問中21問で60%を超えており、概ね目標達成していた。しかし、数学Bでは、正答率が60%を超えている問題は14問中3問にとどまっており、問題文の意味を的確に捉え、資料を活用し、正しく計算する課程で課題を抱えている生徒が多い。したがって、どこで躓いているかの見極めなどの、自己分析も重要になってくる。対策として、問題の意図を読み取り論理的に情報を整理することや順序立てて説明する力をつける。そのため、物事を整理して考えることと、順序立てて説明する問題をたくさん解き、応用問題に慣れることが必要と考える。その上で、自分が間違えた原因を突き止め再度繰り返し問題を解いていくことが必要と思われる。	

○成果が見られる(平均正答率80%以上)・概ね達成している主な設問(平均正答率60%以上)	
出題の趣旨	評価の観点
豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力のとの関係を指摘できる	物理
初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用できる	物理・地学
植物の葉から水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	生物
●課題が見られる主な設問(平均正答率60%以下)	
出題の趣旨	評価の観点
シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	地学
炎の色と金網につくススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	化学
<p>物理の分野においては、設定された7問すべてで平均正答率が60%を上回っており、成果が上がっている。最も課題が残ったのは地学の分野で、7問中4問で課題が残る結果となった。</p> <p>問題の形式別に見てみると、選択式、短答式の問題において正答率が80%程度に達していることから、単純な知識を問う問題への対応はできる生徒が多いとえる。</p> <p>それに対して、記述式の問題では、6問中4問で平均正答率が60%下回っていることである。全体的に知識の活用問題について誤答や無回答が多く、習得した知識を深化させることに対応できない生徒が多いといえる。</p> <p>解決策としては、家庭学習等に取り組む場合、教科書を読むだけでは不十分だということ。教科書の章末問題や問題集などに取り組むことで、科学的思考力を身に付ける必要があると考える。</p>	

理科

### 全体を通して

「一生懸命家庭学習に取り組んでいるのに成果が上がらない」と感じている人の中で、教科書暗記型の学習に偏っている人はいないでしょうか？国語、数学、理科の3教科とも問題の意図を確実に理解し、しっかりと考え、順序立てて相手にわかりやすく表現する力が、共通の課題の一つとなっております。

学校では、「自分の学びを見つけ・試みる機会」を設けるため、放課後や長期休業中の学習会および学習相談会を計画しております。また、家庭学習や日常生活を通して物事を考えたり、疑問に思うことやはっきりと理解できないことを自分で調べるなど、考える癖を付けることも、学力向上の一步になると考えます。

